

山中漆器産業技術センターの平成21年度管理状況

施設所管課	商工労働部経営支援課
指定管理者	(財)山中漆器産業技術センター 理事長 竹中 博康
指定期間	平成21年4月1日～平成24年3月31日

(1) 管理業務の実施状況

業務内容 (協定・条例に規定)	具体的な業務(仕様書、事業計画)の実施状況 (不十分な場合、その理由、指摘事項を記入)																		
「挽物轆轤技術」の後継者育成	<p>挽物轆轤技術研修に関する業務</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>研修生数(人)</th> <th>講義時間(時間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎1学年</td> <td>2</td> <td>1,396</td> </tr> <tr> <td>〃2学年</td> <td>5</td> <td>1,456</td> </tr> <tr> <td>専門1学年</td> <td>6</td> <td>536</td> </tr> <tr> <td>〃2学年</td> <td>6(うち休学1名)</td> <td>684</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>19(うち休学1名)</td> <td>4,072</td> </tr> </tbody> </table>	区分	研修生数(人)	講義時間(時間)	基礎1学年	2	1,396	〃2学年	5	1,456	専門1学年	6	536	〃2学年	6(うち休学1名)	684	計	19(うち休学1名)	4,072
区分	研修生数(人)	講義時間(時間)																	
基礎1学年	2	1,396																	
〃2学年	5	1,456																	
専門1学年	6	536																	
〃2学年	6(うち休学1名)	684																	
計	19(うち休学1名)	4,072																	
山中漆器産業に従事する人たちが利用しやすい施設の管理運営	<p>施設及び開放機器の提供 施設、開放機器の使用(使用件数66件90人) 開館時間の延長 利便向上のため開館時間を夜9時まで延長(火曜及び水曜) 施設の情報提供、広報 ホームページを運営 関係機関との連携・協力の推進 各種講座実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漆芸教室 受講生 延べ816名 ・パソコン教室 受講生 28名 ・山中漆器の意匠開発事業 受講生 9名 ・ものづくり講座 受講生 19名 <p>山中漆器連合協同組合が取り組む産業振興事業をサポート 石川県工業試験場と連携して、組合や従事者に技術を提供 その他特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術的な情報提供及び相談 ・利用者への図書の貸出 																		
伝統工芸に関心のある県民(来県者を含む)が利用しやすい施設管理運営	<p>施設の使用受付、案内等の接遇向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員全員に対し挨拶等接遇マナーを徹底 <p>自主事業の企画・実施</p> <p>企画展の実施(センター展示室、加賀中央図書館) 企画展の周知(市内関係機関および旅館) 県民への普及啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学者への説明 483人 ・体験研修の実施 381人 																		

収入の確保と経費の節減、適切な維持管理	授業料等の徴収に係る業務 授業料 3, 180, 500円 施設・開放機器使用料 34, 080円 効率的な維持管理 ・清掃委託 週1回の館内清掃 ・保守点検委託（消防設備、エレベータ、空調設備） ・警備委託 夜間の機械警備 ・小規模修繕 反復型棚回転装置取替工事
（その他知事が必要と認める業務）	緊急時の対応・安全管理などの危機管理 ・緊急連絡網の策定

（２）施設の利用状況

①利用指標（（設定している場合）利用人数、稼働率などの数値目標）

指 標	H20年度 (参考)	H21年度	前年度比	増減理由
研修生数(人)	16人	19人	119%	入学者の増
利用者数(人)	1,933人	1,826人	94%	見学者の減

②使用許可等の状況

区 分	許可件数	不許可件数	不許可理由
施設使用	2件	0	
開放機器使用	64件	0	

（３）使用料の収入実績

利用料金の収入及び減免の状況

区 分	収入額	減免額	減免理由
施設使用	4,480円	0円	
開放機器使用	29,600円	0円	

（４）収支決算

(千円)

収入		支出	
管理料	37,063	人件費	13,633
授業料収入	3,181	委託料	3,974
使用料収入	34	光熱水費	2,678
		修繕費	748
		その他の管理費	734
		轆轤研修事業費	18,511
合計	40,278	合計	40,278
収支差額	0		

(5) その他、県が必要と認める事項（管理の実態を把握するために必要な事項）

①利用者の意見等

(ア) 利用者アンケート結果

・ろくろ研修事業（平成21年8月実施 有効回答数12件）

項目	回答			
	良い	概ね良い	やや悪い	悪い
利用者サービス	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%
施設の維持管理	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%

・施設開放事業（平成21年4月～平成22年3月実施 有効回答件数13件）

項目	回答			
	良い	概ね良い	やや悪い	悪い
利用者サービス	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
施設の維持管理	92.3%	0.0%	7.7%	0.0%

(イ) 利用者からの意見、苦情、要望

年月	内容	対応
平成21年8月	授業スケジュールがもっと計画的に実施されるとよい。	講師との連携を密にし、スケジュール通り実施するよう努めた。

②事故、故障等

年月	内容	対応
	なし	

③その他報告事項など

特になし

(6) 評価結果

評価項目	結果	所見（工夫、改善点）
① サービスの維持・向上や利用促進に向けた取組みが行われているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・漆器に関する様々なスペシャリストを講師として招き、研修生に対して高いレベルの研修を行っている。特に所長（人間国宝）である川北良造氏自ら、所定講義回数以上の技術指導を積極的に実施している。 ・研修生をはじめ、産地の漆器関係者に対して、山中漆器産業の育成及び支援を行うための、意匠開発事業等を積極的に行っている。 ・児童生徒や一般を対象とした見学や体験教室等を積極的に実施し、山中漆器の普及啓発に努めている。 ・入学案内書は県内の実業高校へ持参すると共に、研修内容について詳細な説明を行っている。また、高校の卒業予定者を対象にした体験研修を実施している。

		<ul style="list-style-type: none"> ・入学に関する問い合わせを受けた場合は、必ず事前に当センターで体験を行うよう依頼している。入学前に「漆器づくりという仕事の厳しさを実感してもらうことで、質の高い研修生を集めることができている。 ・地元の漆器事業者が施設・開放機器をより利用しやすくなるように、研修所の開館終了時間を週2回（火曜及び水曜）、午後5時から午後9時に延長している。 ・研修生や施設利用者を対象としたアンケートを実施し、サービスの維持向上等に活用している。
②施設、設備及び備品の維持管理及び修繕が適切に行われているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挽物轆轤研修事業を円滑に進めるために、設備の保守点検を定期的に行うなど、適切な維持管理に努めている。また、施設等が故障した場合は、研修等に支障が生じないように速やかに修繕を行っている。
③適切な管理運営・危機管理を行う組織・体制となっているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡網を策定し、非常時に備えた危機管理体制を整えている。 ・ノウハウをもった職員を適切に配置することで、漆器事業者の相談や見学・体験者への対応といった点を含め、適切な管理運営を行っている。
④その他、必要と認める事項（例：苦情処理、個人情報保護）	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生、相談者の個人情報保護に留意している。
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・山中漆器産業の育成及び支援を行うことを目的として、適切な管理運営を行っているほか、山中漆器に関心のある県民に対しての普及啓発事業も積極的に行っている。

○評価基準

- A：仕様書や事業計画に定める水準を上回っている
- B：仕様書や事業計画に定める水準を実施している
- C：仕様書や事業計画に定める水準を概ね実施しているが、一部課題がある
- D：仕様書や事業計画に定める水準を下回っている

○総合評価

- A：適正であり、優れた実績をあげている
- B：適正である
- C：概ね適正であるが、一部努力が必要である
- D：改善が必要である

(7) 助言・指摘事項

特になし